

みんなで

大きなかぶ

をぬこう



「わたしらしく、あなたらしく」を応援しあう「まち」

あい・プラン まにわ
第5次真庭市男女共同参画基本計画

令和8年(2026年) 月真庭市

はじめに

『大きなかぶ』の物語から学ぶ【計画の趣旨】

畑に、大きなかぶが育ちました。

まごが畑でかぶを抜こうとするけれど、抜けません。

まごは、みんなに助けをよびかけます。

おばあさん、おじいさん、いぬ、ねこ、ねずみ。

次々と力を合わせ、ようやくかぶが抜けました。

みんなでかぶを食べました。

そして、次にどんな「かぶ」を育てるか、話しました。

『あい・プラン まにわ』とは・・・

♡ 「愛」	愛情 思いやり・包み込む心 家族や仲間を信じる温かさ
人 「I」	私自身 自分から始まる行動 「抜こう」とまず引っ張ってみる
GOO 「eye」	目（視点・まなざし） ねずみも仲間。すべての存在を平等に見る
🤝 「合い」	ふれ合い・認め合い・支え合い 協力・調和 「うんとこしょ、どっこいしょ」の声
👥 「相」	お互い・相手 相互の関係性 一人ではなく、仲間で抜こう
👤 「会い」	出会い・立会い・めぐり会い 出会い・つながり 仲間を呼び集め、力を広げる



※本計画では、主人公の設定を「おじいさん」から「まご」に変更しています。

真庭市でも、

社会的な性差^{※1}により、生きづらさを感じながら生活している人、潜在能力^{※2}を伸ばすことができない人がいます。少子化や人口減少も大きな課題です。

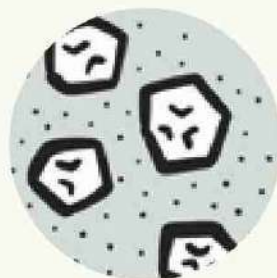
民話『大きなかぶ』の話から「仲間で力をあわせる」「土をたがやし、石をどけ、抜けやすくする」「次に育てるものを共に考える」「種をまき、育てる」という場面を通して、性差に関係なく、誰もが個人として尊重され、自分らしく生きられる地域社会を市民と一緒に考え、実現するために、本計画を策定しました。

かぶ



すでに真庭市にある「だれもが自分らしく生きられる地域」を象徴しています。固い土に埋もれて、今は少ししか見えません。土の中では、大きくおいしい「かぶ」が育っています。

土・石



偏見や慣習、制度などの、土の固さや石が、「かぶ」を抜きにくく、成長しにくくしています。でも、「大きなかぶ」(地域)を育んできた栄養でもあります。力を合わせてたがやせば、次の「大きなかぶ」が育ちます。

仲間



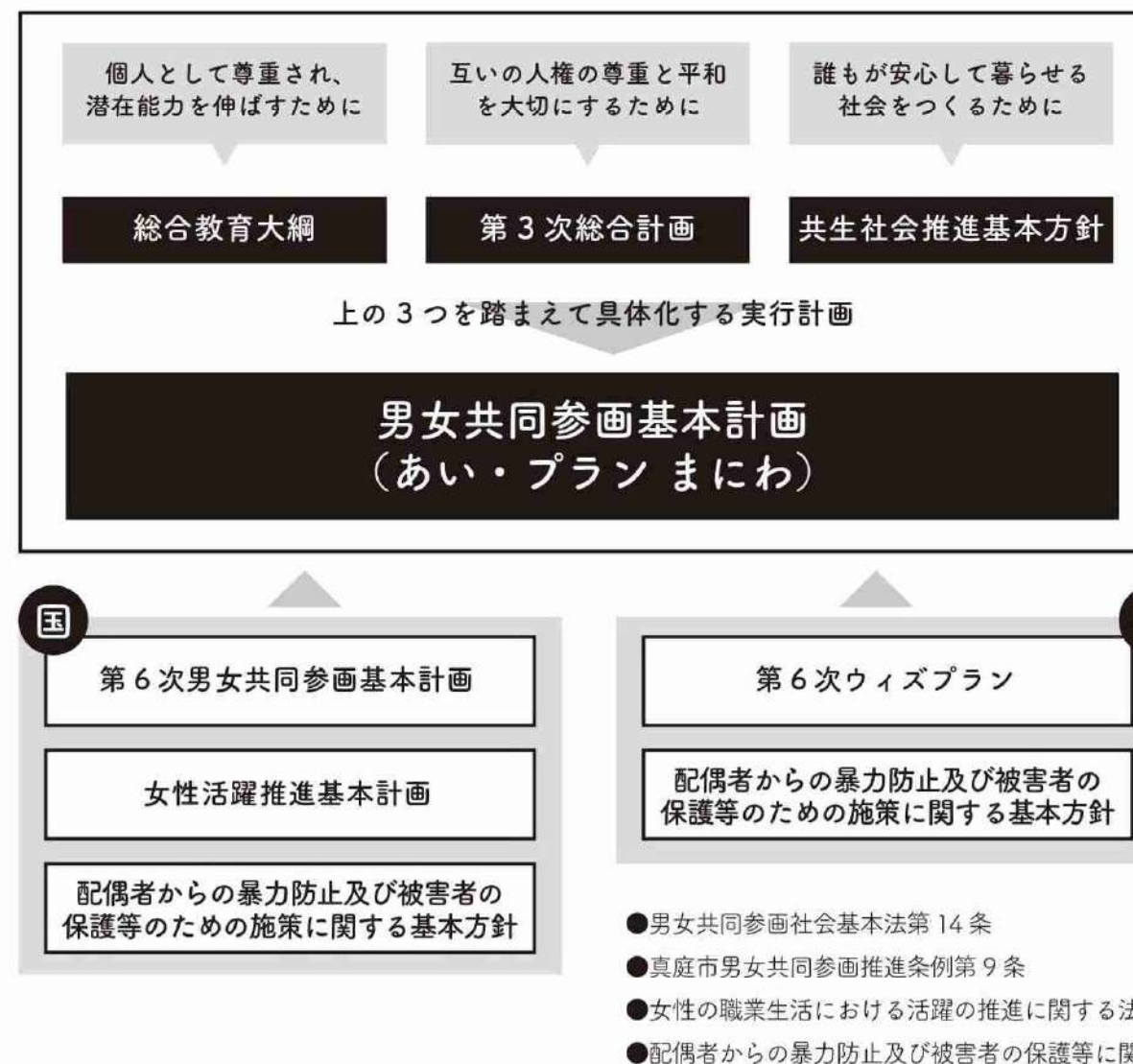
世代や立場をこえて協力する仲間。「大きなかぶ」を抜くには、いろんな力が必要です。ねことねずみのように、仲が悪くても、声をかけて、「仲間」になります。そして、「次のかぶ」を考え、育みます。

第1章 計画について

1 基本理念

- 個人の尊重^{※3}・・・一人ひとりの人権と尊厳を大切に
- 共生・・・互いに支え合い、安心して暮らす
- 自分らしく・・・性差にとらわれず、のびのびと生きる

2 計画の位置づけ



3 計画期間 令和8(2026)年度～令和12(2030)年度5年間

※1 社会的性差：生物学的性差に対して、社会や家庭、地域の中にある、性別による差のこと。ジェンダーに含まれることもある。

※2 潜在能力：人生の価値を見出し、人生を選択し、自由に生きることができる機能の集合。アマルティア・センが提唱した。

※3 個人の尊重：日本国憲法第13条。基本理念。

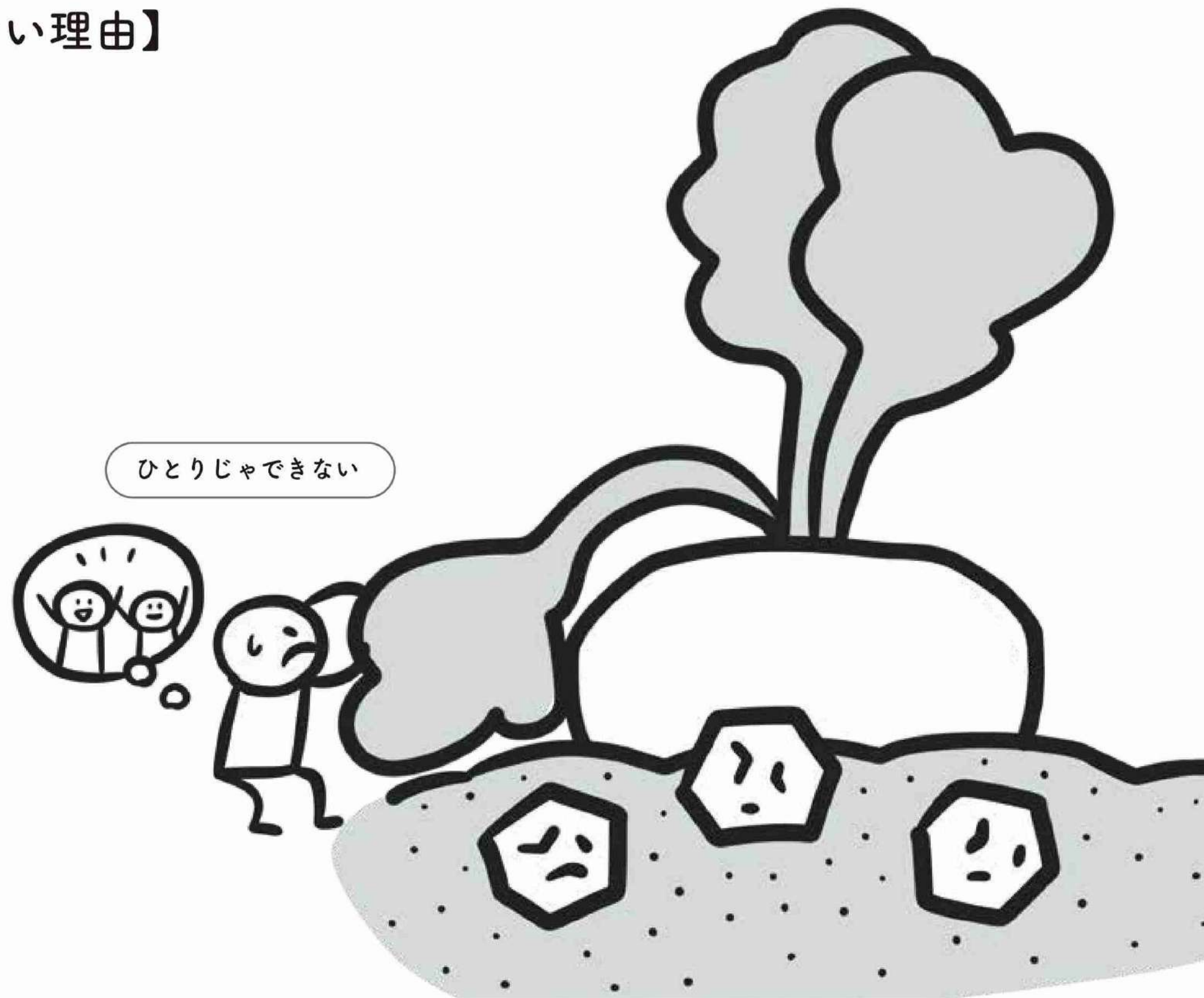
第2章

現状と課題【かぶが抜けない理由】

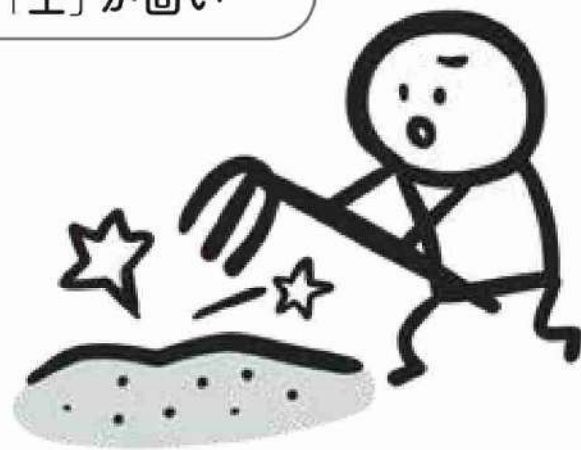
大きなかぶを見つけました。
でも、かぶは抜けません。
どうして抜けないのでしょうか？

【仲間】人・つながり・協働のしくみ

- 真庭市全体で推進する姿勢が弱い
- 行政、議会、教育、地域、経済等の各分野での連携した取組が少ない
- 企業や組織以外での女性の横のつながりが少ない
- 社会的性差に取り組む団体が少ない
- 組織や地域、学校等にお手本となる人（ロールモデル）を見つけづらい
- 社会的性差について考える機会が少ない



「土」が固い



【土】意識・文化・考え・習慣

- 家庭・地域・職場などにある固定的役割分担意識^{※4}
- 固定的役割分担意識を起点とする無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）^{※5}がある
- 身体的性差の誤解による不必要な配慮がある
- 性差に基づく自己肯定感の低さ・自信の低さ
- 濃厚な人間関係からくる息苦しさ
- 男性にもある生きづらさ
- ジェンダー^{※6}に関する知る・学ぶ機会が少ない
- 社会的性差に対しての世代間の意識の違いがある

※4 固定的役割分担意識：性別によって、家庭や社会などでの役割分担する意識や考え

※5 アンコンシャスバイアス：自分でも気づかない偏見や差別

※6 ジェンダー：社会や文化が作ってきた「性別に関する役割・期待・規範」のこと。社会的性差の根源となっている。

土の中の石がじゃま

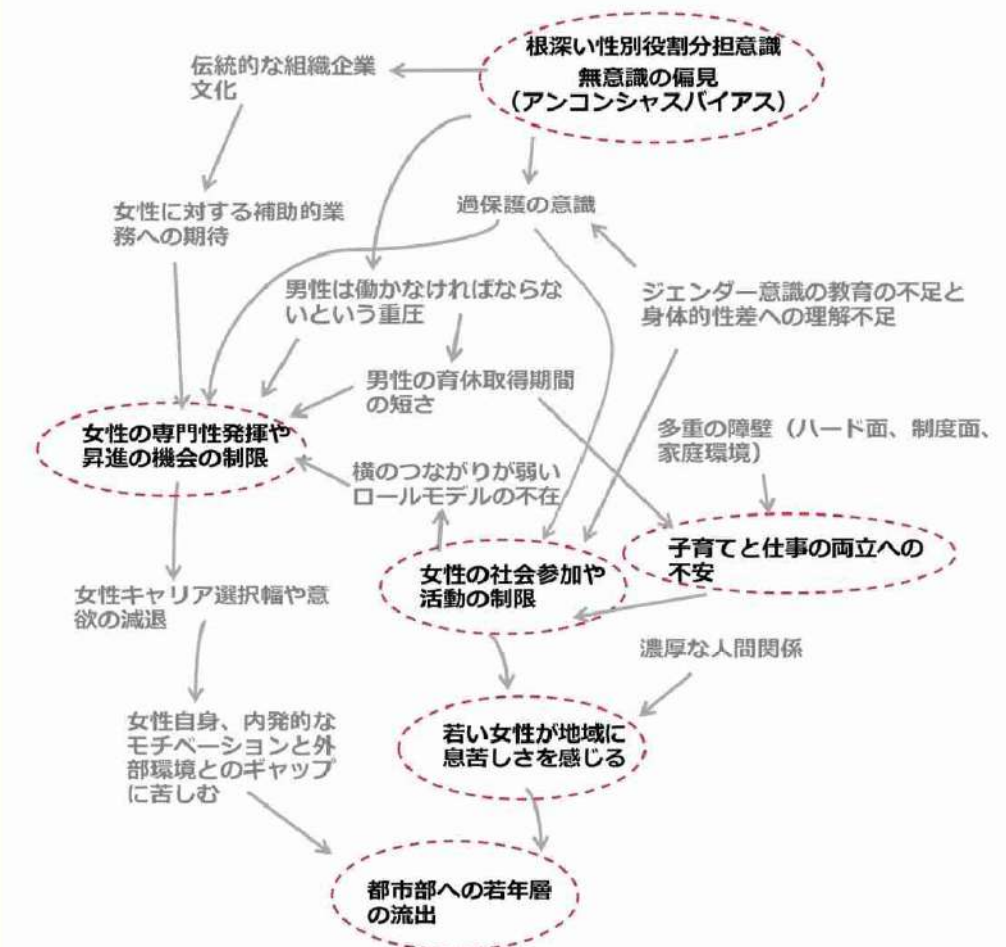


【石】社会の制度・構造、環境

- 配偶者等の暴力（DV）^{※7}
- 意思決定の場への女性の不足
- キャリア形成の不明確さ
- 子育て・介護、地域と家庭の両立の困難さ
- 職種や働き方の性差による偏り

※7 配偶者等の暴力：配偶者等による有形無形の暴力

課題のつながり図（概要）



令和6年度市民意識調査、令和7年度市民インタビューから作成

第3章

基本目標と目指す姿【みんなでかぶを分け合って食べる】

【基本目標】

「わたらしく、あなたらしく」を応援しあう「まち」
～みんなで、大きなかぶを抜こう～

だれもが、自分らしく、幸せを感じる人生を歩く。

性差ではなく、互いの個性と能力を認め、応援しあう。

力を合わせ「かぶ」を抜き、分け合う。

だれにも居場所と役割がある。

「大きなかぶ」は、そんな地域です。

そして、次の「かぶ」を育てる新しい仲間も、加わっていきます。





ほかの仲間を呼んでくるよ

少ししか力が出ないけど

抜けたら、どうするの？

大きな声で掛け声をかけるよ

土の様子をよく見ておくよ

みんなで食べようよ

一緒に抜くよ

しっぽしか貸せないよ



このかぶ、一緒に食べようよ

かぶのつけものにする

その料理、おいしそうだね

それ、食べてみたいな

次に、どんなかぶを育てようか

次のかぶは、一緒に育ててみたいな

スープにして、みんなにおすそ分け

第4章

重点施策【かぶを抜く手立て】

どうやって抜こうかな



スタート

世代や立場を超えた仲間をつくる

一人では抜けない「かぶ」も、仲間と力を「うんとこしょ」と声を合わせて抜くことができる。



- ・真庭市全体での推進体制の構築
- ・市民や団体のつながりをつくる
- ・団体の育成や支援を行う
- ・ロールモデルの育成と啓発

固い土をたがやす

土が固くて「かぶ」が抜けない。
みんなで土をたがやそう。応援し合おう。



- ・男女共同参画施策の啓発
- ・固定的役割分担意識やアンコンシャスバイアスの解消
- ・顕在化している生きづらさの解消
- ・身体的性差・社会的性差を学ぶ機会づくり
- ・男性の生きづらさに対する支援



土の中の石をなくす

石がじゃまで、「かぶ」が抜けない。
石を砕こう。



- ・配偶者等の暴力の廃絶
- ・賃金格差や採用格差等の社会構造化している社会的性差の解消
- ・社会構造の見える化

※8 社会構造：固定的役割分担意識などにより、制度や慣習、仕組みなどになっている社会的性差

次のかぶを育てる

次はどんなかぶを、どうやって育てるか、みんなで話そう。



- ・社会的性差が解消された社会を考える機会づくり
- ・次世代につながる核となるリーダー層の育成



大きなかぶを育てる栄養

かぶが抜けた土に、栄養を入れて、次のかぶを育てる準備をしよう。



- ・多様なライフスタイルや価値感への理解の醸成
- ・時代の進展に合わせた共生社会の実現のための意識醸成

第5章

推進体制

【かぶを抜き、育てる役割分担】

(真庭市男女共同参画推進条例第6条、第7条、第8条)

多様な立場の協力体制

一人ひとり、それぞれの立場で声をかけあい、話し、応援し合うことで、大きなかぶを抜く物語を紡いでいくことができます。

1 市民の役割（実行・改善）

声をかけ合い、仲間と土をたがやし、かぶを抜く物語の主人公です。いろんな場面で「性別で決めつけていないか」と考え、仲間との対話や学びから、物語を前に進めます。

2 団体・事業所の役割（実行・改善）

だれもが、自分らしく能力を生かせる環境をつくります。意思決定や参画の仕組みを見直し、石を取りのぞき、豊かにする大切な担い手です。

3 市の役割（評価・計画・実行）

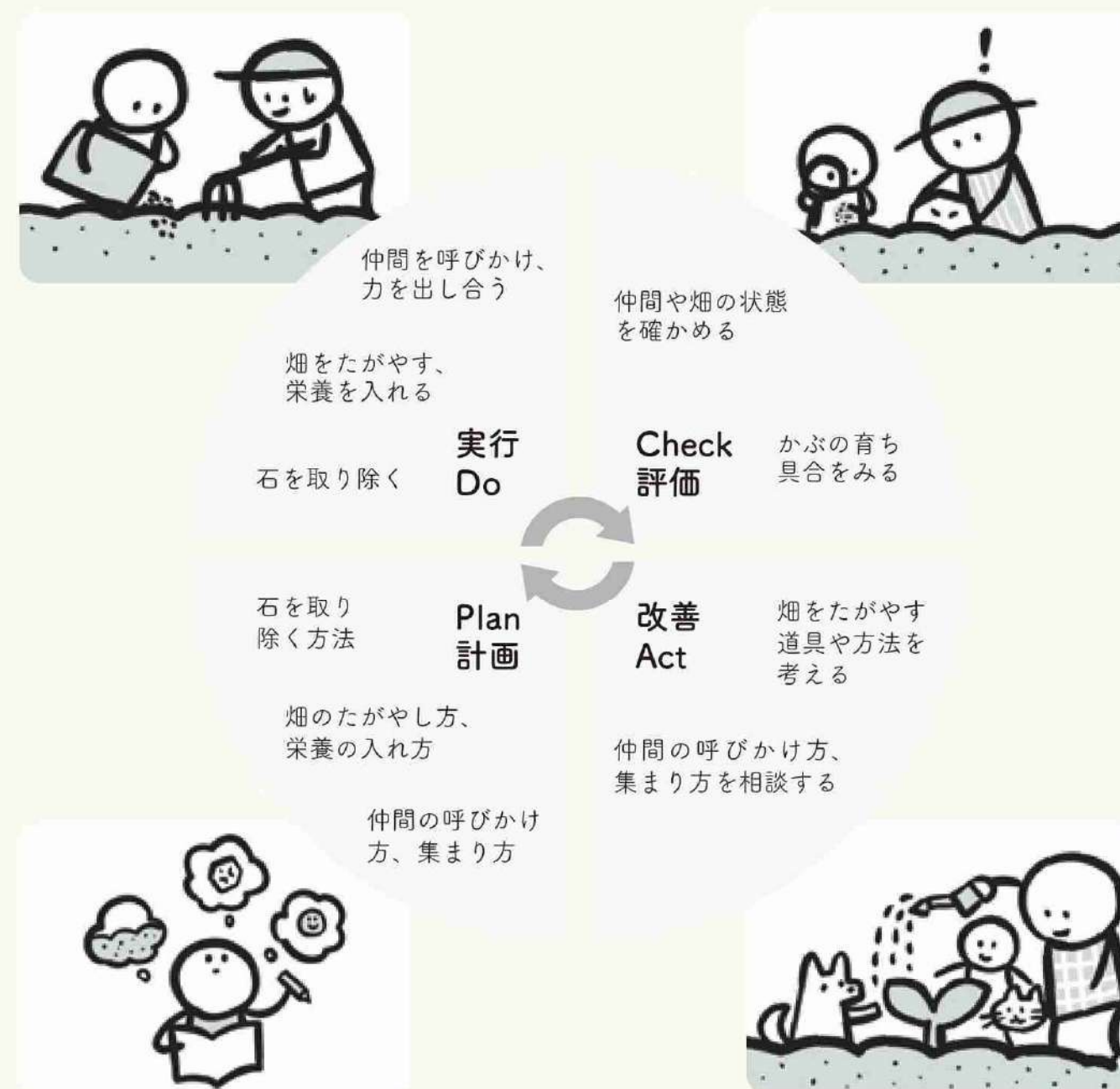
土と石を見わたし、かぶを育て抜くまでの手立てを整えます。市民や団体、事業者と手を取り合い、仲間づくりから土壌づくりまで、計画的に物語の道筋を整えていきます。

第6章

評価と見直し

【収穫を分かち合う】

1. 進捗管理と点検（CAPD）^{※9}



※9 CAPD：真庭市では現状を確認することから始める趣旨で、Checkから始めています。

2. 成果指標

【仲間】

交流やコミュニティの場での提案事業の実施数 : 年2件以上
実施実績なし

交流やコミュニティの場への参加者(のべ) : 年200人以上
実施実績なし

【土】

地域幸福度(Well-Being)指数 女性が活躍しやすい地域
: 50.0以上
令和5年度 41.1

市民意識調査(30・40代) 男性の家事時間数における男女の
認識の差: 男女比1.5:1以内
令和6年度調査結果 男2(96.5分): 女1(50.6分)

【石】

審議会等委員女性登用率: 45%以上
令和6年度 35.8%

大きなかぶが抜けたあと、まごは畑を見渡し、みんなに声をかけました。
「どれくらい育っていたかな。どこがやりやすかったかな。」
おばあさんとおじいさんは土の様子を思い出し、
いぬやねこ、ねずみは動きやすさを振り返りました。
うまくいったことは大切に、まだ固いところは手入れを続ける。
そうして分かち合った実りは、次の種になります。
未来のかぶをみんなで育て続けるための、大切な物語のつづきです。



真庭市生活環境部くらし安全課

〒719-3201 岡山県真庭市久世 2927-2

TEL：0867-42-1017 / FAX：0867-42-7455

真庭市公式ホームページ <https://www.city.maniwa.lg.jp>

